

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	小倉リハビリテーション学院
設置者名	学校法人 巨樹の会

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	理学療法学科 昼間コース	夜・通信	77 単位	9 単位	
	理学療法学科 夜間コース	夜・通信	77 単位	7 単位	
	作業療法学科 昼間コース	夜・通信	62 単位	9 単位	
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.kokura-reha.jp/info/support/">https://www.kokura-reha.jp/info/support/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	小倉リハビリテーション学院
設置者名	学校法人 巨樹の会

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://kyoju.ac.jp/financial/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	病院院長	令和7年5月30日 ～令和11年定時評 議員終結の時	法人運営全般
非常勤	病院副院長	令和7年5月30日 ～令和11年定時評 議員終結の時	実習病院との連携 強化
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	小倉リハビリテーション学院
設置者名	学校法人 巨樹の会

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>学校法人巨樹の会リハビリテーション部門のカリキュラム委員会において、カリキュラム内容に関する見直しを行っている。</p> <p>シラバスに関しては、カリキュラムを基に前年度の 9 月に各校の科目担当者が話し合い、講義内容及び行動目標を作成する。作成したものをカリキュラム委員会で精査したのち、決定となる。</p> <p>カリキュラム委員会の会議は毎月実施している。決定したカリキュラム及びシラバスは、4 月に学生に配布およびホームページに公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.kokura-reha.jp/subject/curriculum/">https://www.kokura-reha.jp/subject/curriculum/</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>単位修得の認定は、講義、実習等の出席状況と当該科目の評価により行う。出席時間数が、各授業科目の 3 分の 2 に達しない者は、その科目について評価を受ける資格を失う。</p> <p>学科及び演習の評価は定期試験および再試験とする。本試験で不合格の場合には再試験を実施する。評価は A, B, C, D とし、C 以上を合格とする。</p> <p>A: 80 点以上 B: 70 点以上 C: 60 点以上 D: 60 点未満</p> <p>総合評価においては、学年毎の科目の平均点にて行う。そして 1 年間の成績結果は年度末の単位認定会議にて認定する。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全科目の難易度を平均70点以上となるよう目標設定している。</li> <li>・履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均点を算出する(100点満点で点数化)</li> </ul> <p>「履修した授業科目の試験総得点」÷「履修した授業科目の総数」＝成績評価点とする。</p> <p>評価はA,B,C,Dの4段階とする。</p> <p>A:80点以上 B:70点以上 C:60点以上 D:60点未満</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p><a href="https://www.kokura-reha.jp/info/support/">https://www.kokura-reha.jp/info/support/</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程に定められているすべての授業科目の単位修得を認定されたものに対し、卒業認定を行う。</li> </ul>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p><a href="https://kokura-reha.jp/information/disclosure.html">https://kokura-reha.jp/information/disclosure.html</a> 「職業実践専門課程の基本情報について」 各コース様式PDF内「卒業・進級条件」に掲載</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	小倉リハビリテーション学院
設置者名	学校法人 巨樹の会

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://kyoju.ac.jp/financial/">https://kyoju.ac.jp/financial/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://kyoju.ac.jp/financial/">https://kyoju.ac.jp/financial/</a>
財産目録	<a href="https://kyoju.ac.jp/financial/">https://kyoju.ac.jp/financial/</a>
事業報告書	<a href="https://kyoju.ac.jp/financial/">https://kyoju.ac.jp/financial/</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://kyoju.ac.jp/financial/">https://kyoju.ac.jp/financial/</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

【理学療法学科 昼間コース】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	127 単位時間/単位	単位時間 76/単位	単位時間 31/単位	単位時間 20/単位	単位時間 0/単位	単位時間 0/単位
			127 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		216人	0人	9人	25人	34人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 担当教員にて授業計画を立案し、カリキュラム委員にて内容の確認を行う。 計画作成時期：前年度中 公表時期：4月
成績評価の基準・方法
（概要） （成績評価）A(80点以上)・B(79～70点)・C(69点～60点)・D(60点未満)の4段階とし、C以上を合格とする。 ・単位認定は、当該科目に必要な出席状況と当該科目の評価により、単位認定会議にて決定する。 ・単位修得については、科目を履修しなければならない。
卒業・進級の認定基準
（概要） （進級）教育課程に基づき、各学年の科目単位を履修すること。 （卒業）教育課程に定められているすべての授業科目の単位修得を認定された者に対し、学校運営会議にて学院長が卒業を認定する。
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>ミニテストを実施し、早期に学習支援が必要な学生を対象に、支援を行っている。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
84人 (100%)	0人 (0%)	75人 (89.3%)	9人 (10.7%)
(主な就職、業界等) 医療施設、介護・福祉施設など			
(就職指導内容) 就職セミナーや履歴書の書き方、面接指導等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 理学療法士			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
231人	3人	1.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 教科による学習支援、担任による面談等の指導、週一回の臨床心理士によるカウンセリングの実施		

【理学療法学科 夜間コース】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	夜	127 単位時間／単位	単位時間 76/単位	単位時間 31/単位	単位時間 20/単位	単位時間 0/単位	単位時間 0/単位
			127 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		42人	0人	6人	28人	34人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 担当教員にて授業計画を立案し、カリキュラム委員にて内容の確認を行う。 計画作成時期：前年度中 公表時期：4月
成績評価の基準・方法
（概要） （成績評価）A(80点以上)・B(79～70点)・C(69点～60点)・D(60点未満)の4段階とし、C以上を合格とする。 ・単位認定は、当該科目に必要な出席状況と当該科目の評価により、単位認定会議にて決定する。 ・単位修得については、科目を履修しなければならない。
卒業・進級の認定基準
（概要） （進級）教育課程に基づき、各学年の科目単位を履修すること。 （卒業）教育課程に定められているすべての授業科目の単位修得を認定された者に対し、学校運営会議にて学院長が卒業を認定する。
学修支援等
（概要） ミニテストを実施し、早期に学習支援が必要な学生を対象に、支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
32人 (100%)	0人 (0%)	30人 (93.8%)	2人 (6.2%)
（主な就職、業界等） 医療施設、介護・福祉施設など			
（就職指導内容） 就職セミナーや履歴書の書き方、面接指導等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 理学療法士			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
76人	3人	3.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 教科による学習支援、担任による面談等の指導、週一回の臨床心理士によるカウンセリングの実施		

【作業療法学科 昼間コース】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	126 単位時間／単位	単位時間 79/単位	単位時間 25/単位	単位時間 22/単位	単位時間 0/単位	単位時間 0/単位
			126 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		113人	0人	8人	18人	26人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 担当教員にて授業計画を立案し、カリキュラム委員にて内容の確認を行う。 計画作成時期：前年度中 公表時期：4月
成績評価の基準・方法
（概要） （成績評価）A(80点以上)・B(79～70点)・C(69点～60点)・D(60点未満)の4段階とし、C以上を合格とする。 ・単位認定は、当該科目に必要な出席状況と当該科目の評価により、単位認定会議にて決定する。 ・単位修得については、科目を履修しなければならない。
卒業・進級の認定基準
（概要） （進級）教育課程に基づき、各学年の科目単位を履修すること。 （卒業）教育課程に定められているすべての授業科目の単位修得を認定された者に対し、学校運営会議にて学院長が卒業を認定する。
学修支援等
（概要） ミニテストを実施し、早期に学習支援が必要な学生を対象に、支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33人 (100%)	0人 (0%)	33人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 医療施設、介護・福祉施設など			
(就職指導内容) 就職セミナーや履歴書の書き方、面接指導等			
(主な学修成果(資格・検定等)) 作業療法士			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
6年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
109人	6人	5.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 教科による学習支援、担任による面談等の指導、週一回の臨床心理士によるカウンセリングの実施		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
理学療法学科 昼間コース	250,000 円	950,000 円	250,000 円	施設設備費 250,000 円
理学療法学科 夜間コース	250,000 円	650,000 円	150,000 円	施設設備費 150,000 円
作業療法学科 昼間コース	250,000 円	950,000 円	250,000 円	施設設備費 250,000 円
修学支援 (任意記載事項)				
夜間コースは1・2・3・4年次 合計 1,000,000 円の修学支援あり 早期受験 授業料割引 100,000 円あり 特待生制度あり (授業料全額・半額・1/3 割引)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.kokura-reha.jp/information/evaluation.html">https://www.kokura-reha.jp/information/evaluation.html</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>【主な評価項目】 教育理念、教育目的・目標、人材育成像、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受け入れ・募集、財務、法令等の遵守、社会貢献、地域貢献</p> <p>【評価委員会の構成】 委員の定数：6名 委員の選出区分：関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民</p> <p>【評価結果の活用方法】 当該年度の自己評価を2月末までに完了し、3月の学校関係者評価委員会において、その自己評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目や解決の方向性について評価を行う。また、教育活動及び学校運営を点検し、継続的に改善することにより、社会の変化に対応できる学校組織を目指すとともに、情報公開により学校の透明性向上を図る。責任者は学院長とし、教務部長を中心に3月の次年度教育計画時に改善方策を行い、次年度に繋げる。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人 日本海員掖済会 門司掖済会病院 リハビリテーション科 副技師長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業等委員
介護老人保健施設 桜丘	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業等委員
健和会 大手町診療所	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	卒業生
折尾愛真高校 進路指導主事	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日	高校等評価委員

西南女学院大学 保健福祉学部福祉学科教授	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	学術委員
北九州市立沼市民センター	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	地域住民
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://kokura-reha.jp/information/evaluation.html">https://kokura-reha.jp/information/evaluation.html</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://kokura-reha.jp/">https://kokura-reha.jp/</a>
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H140310000276
学校名 (〇〇大学 等)	小倉リハビリテーション学院
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 巨樹の会

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		72人	67人	75人
内訳	第Ⅰ区分	33人	33人	
	(うち多子世帯)	0人	0人	
	第Ⅱ区分	21人	21人	
	(うち多子世帯)	0人	0人	
	第Ⅲ区分	-	-	
	(うち多子世帯)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	-	-	
区分外 (多子世帯)	0人	0人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				75人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 <small>(単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当)</small>	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-
3月以上の停学	0人
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	-	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	11人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	11人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。